

平成15年度 河川水辺の国勢調査 (河川空間利用実態調査・ダム湖利用実態調査) 結果の概要

1. 調査の概要

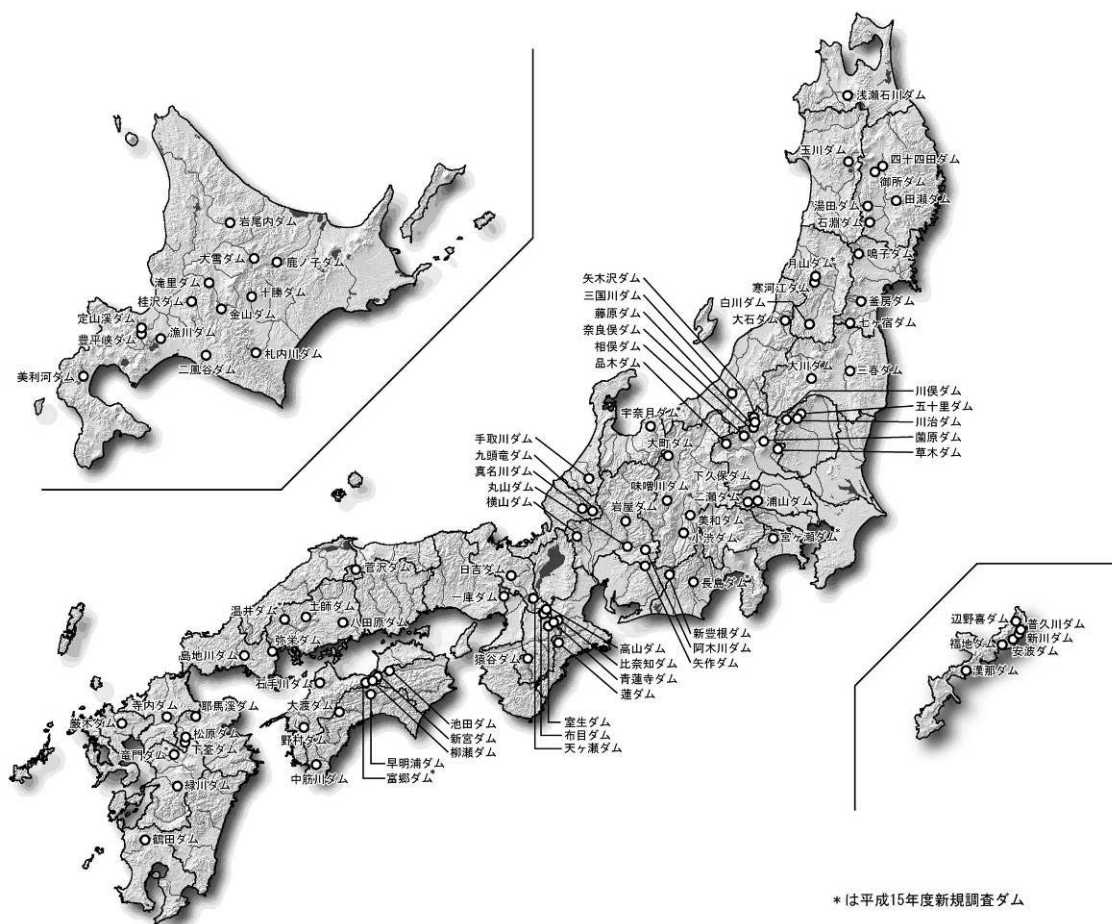
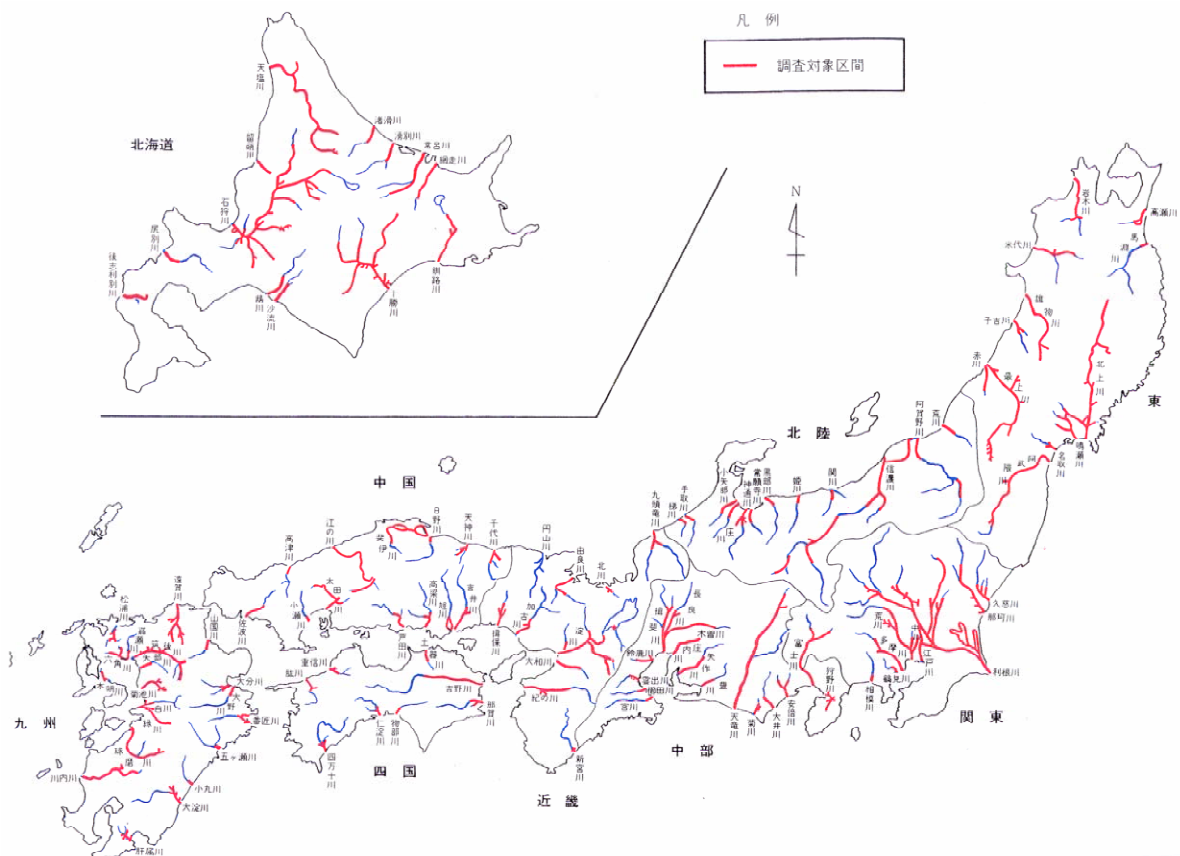
本調査は、水辺空間の利用状況の実態を把握し良好な河川・ダム湖空間の保全・整備に資することを目的とするものであり、一級水系の国の直轄管理区間（河川の区間約8,694km、国及び独立行政法人水資源機構が管理する98箇所のダムの貯水池（沖縄の直轄ダムを含む））を対象としています。

調査は、四季を通じた休日5日、平日2日の合計7日の現地調査を実施し、年間利用者数の推定を行うものです。（それぞれの調査の推計方法の詳細は、報告書を参照。）
なお、調査は、平成3年度より概ね3年毎に実施しており、全国108の一級水系と98箇所のダムで調査を実施しました。（円山川水系、荒川水系の荒川調整池及び利根川水系の渡瀬遊水地は調査を行っていないため、これらにおける利用者の推計値は含まれていません。）

表1 調査実施日（赤字は休日）

季節	河川	ダム湖
春季	平成15年4月29日（火）（みどりの日） 平成15年5月5日（月）（こどもの日） 平成15年5月19日（月）	平成15年4月29日（火）（みどりの日） 平成15年5月5日（月）（こどもの日） 平成15年5月15日（木）
夏季	平成15年7月27日（日） 平成15年7月28日（月）	平成15年7月27日（日） 平成15年8月7日（木）
秋季	平成15年11月3日（月）（文化の日）	平成15年11月3日（月）（文化の日）
冬季	平成16年1月12日（月）（成人の日）	平成16年1月11日（日）

※ 一部の水系において、天候・地震の発生等の事情により、調査実施日を若干ずらしています。



2. 調査結果の概要

一級水系（１０８水系）における一年間の利用者の総数は、約２億４８９万人

全国１０８の一級水系直轄管理区間（ダム湖の区間を含む）の一年間の利用者の総数は、約２億４８９万人（河川１億９,１０４万人、ダム湖１,３８５万人）であり、２億人を突破しました。前回調査を行った平成１２年度に比べて１,１５１万人の増加でした。

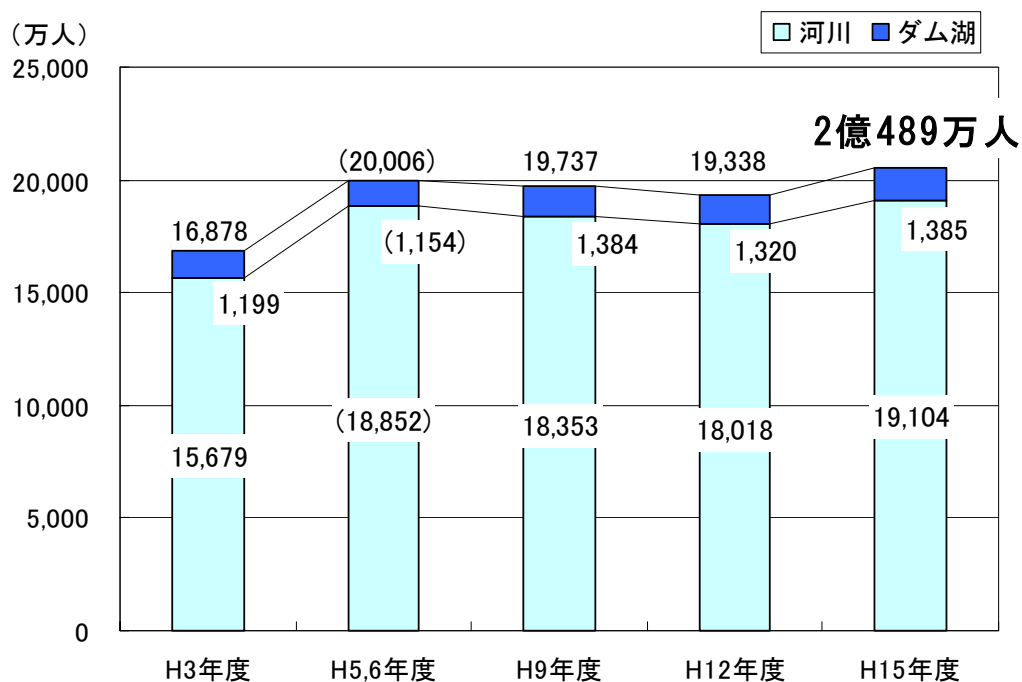
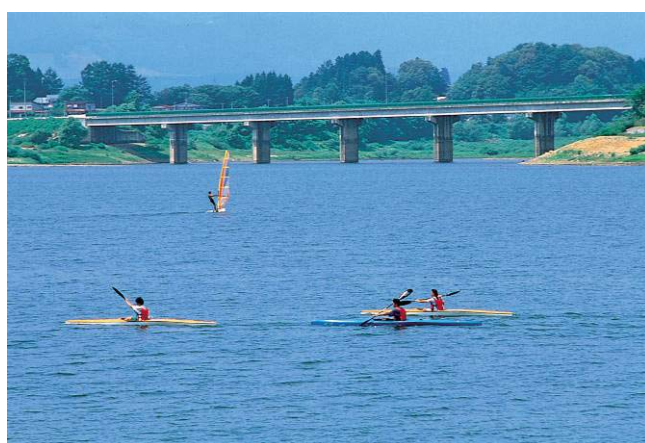


図 3 一級水系直轄管理区間の利用者総数

※H5 年度は河川の調査、H6 年度はダム湖の調査を行いました。



淀川水系（大阪府等） マラソン



御所ダム（岩手県） カヌー

一年間の利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系（茨城県等）

一年間で利用者の総数が最も多かった水系は、利根川水系（茨城県等）でした。以下、2位・淀川水系（大阪府等）、3位・荒川水系（東京都等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・木曽川水系（岐阜県等）の順です。

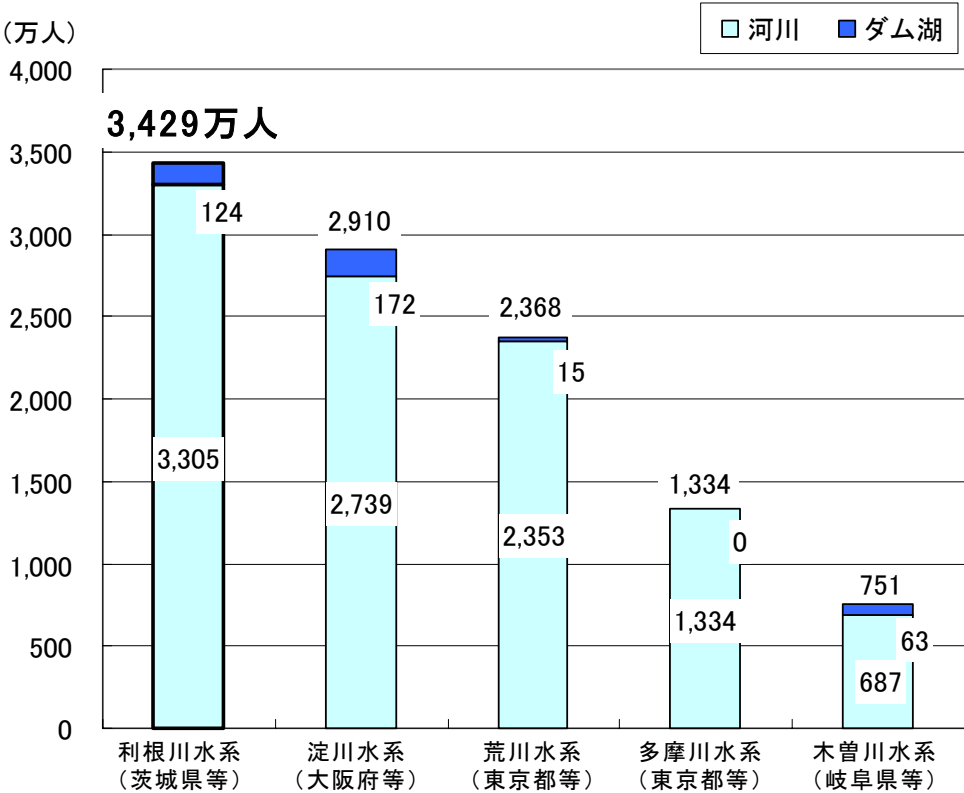


図 4 水系別年間河川空間利用者総数 上位 5 水系



荒川水系（東京都等） 野球大会

利用形態別では、散策が 54.5%で最多

利用形態別にみると、散策が 54.5%と約半数を占め、次いでスポーツが 32.7%であり、釣りとはそれぞれ 10%に満たない状況です。

※ダム湖の利用形態の「ボート」は「水遊び」に、「その他（キャンプ、写真撮影等の野外活動、レストラン、売店等の各種施設利用、お祭り、催し物、ダム見学等のその他活動）」は「散策」に含めています。

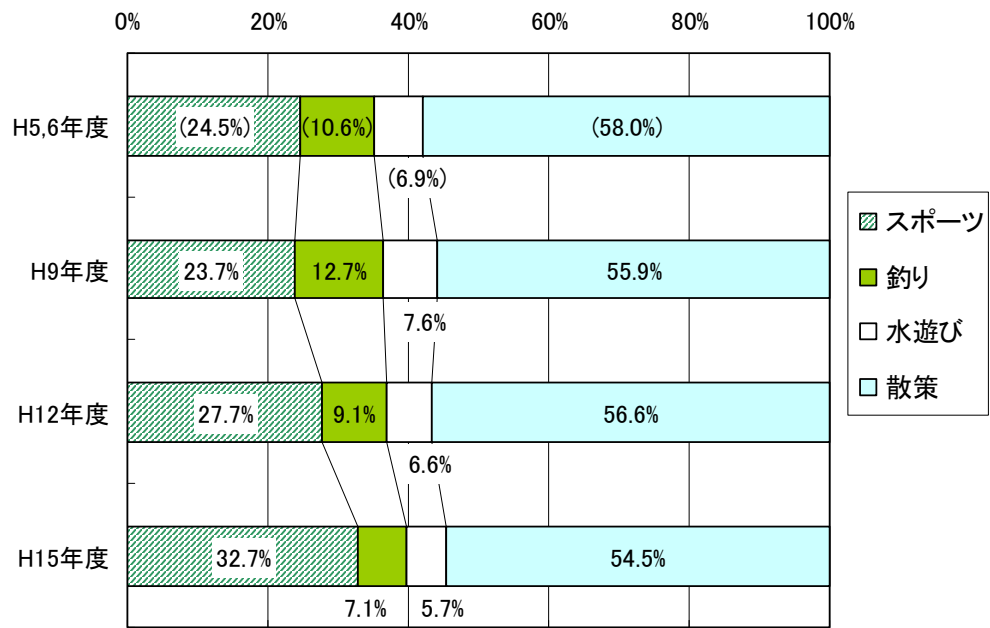


図 5 利用形態別内訳の経年変化



北上川水系（宮城県等） 散策

3. 調査結果の概要(河川編)

河川空間の一年間の利用者総数は1,086万人増加して、1億9,104万人

河川空間の利用者総数は前回より1,086万人増えて、1億9,104万人となりました。平成5年度調査から3回連続で減少していましたが、今回、増加に転じました。108水系のうち、60水系で前回よりも利用者が増え、48水系で減少しました。

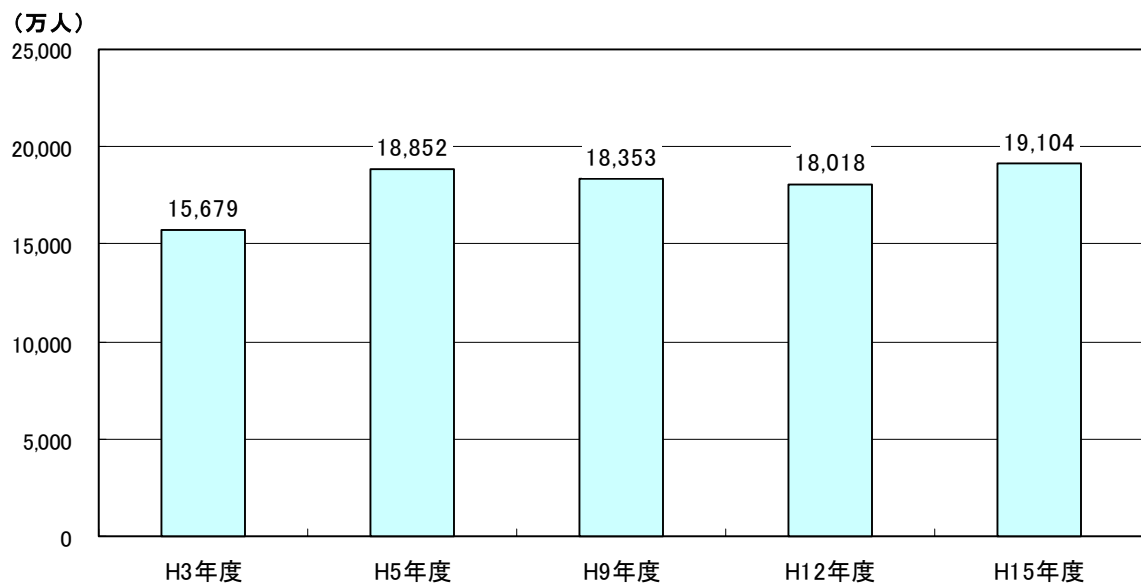


図6 河川空間利用者総数の推移

H15年度は冷夏で、水上スポーツや水泳、釣りなど、水面を利用して行う活動は4.5%から3.4%と減りましたが、全体として利用者が増加しました。直接水に親しむだけでなく、河川空間が様々に利用されていることを示しているといえます。



最上川水系(山形県) 水遊び

一年間の利用者の総数が最も多かった水系（ダム区間を除く）は、利根川水系

1年間の利用者が最も多かったのは利根川水系（茨城県等）でした。以下、2位・淀川水系（大阪府等）、3位・荒川水系（東京都等）、4位・多摩川水系（東京都等）、5位・信濃川水系（新潟県等）の順です。利根川水系は前回の第3位からの振り返りです。

また、直轄管理区間延長あたりの年間河川空間利用者総数が最も多い水系は3回連続で多摩川水系（東京都等）でした。以下、2位・荒川水系（東京都等）、3位・相模川水系（神奈川県等）、4位・淀川水系（大阪府等）、5位・安倍川水系（静岡県）です。

表 2 年間利用者総数ランキング（万人）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	利根川（茨城県等）	2,791	荒川（東京都等）	2,532	利根川（茨城県等）	3,305
2位	荒川（東京都等）	2,588	淀川（大阪府等）	2,409	淀川（大阪府等）	2,739
3位	多摩川（東京都等）	2,090	利根川（茨城県等）	2,165	荒川（東京都等）	2,353
4位	淀川（大阪府等）	1,757	多摩川（東京都等）	1,707	多摩川（東京都等）	1,334
5位	木曽川（岐阜県等）	811	木曽川（岐阜県等）	888	信濃川（新潟県等）	689

※全て水系名です。

表 3 直轄管理区間延長あたりの年間利用者総数ランキング（万人／km）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	多摩川（東京都等）	26.6	多摩川（東京都等）	21.7	多摩川（東京都等）	17.0
2位	荒川（東京都等）	17.9	荒川（東京都等）	17.5	荒川（東京都等）	16.2
3位	鶴見川（神奈川県等）	12.8	相模川（神奈川県等）	17.1	相模川（神奈川県等）	12.9
4位	相模川（神奈川県等）	10.9	矢作川（愛知県等）	11.0	淀川（大阪府等）	11.8
5位	淀川（大阪府等）	7.5	淀川（大阪府等）	10.3	安倍川（静岡県）	8.0

※全て水系名です。

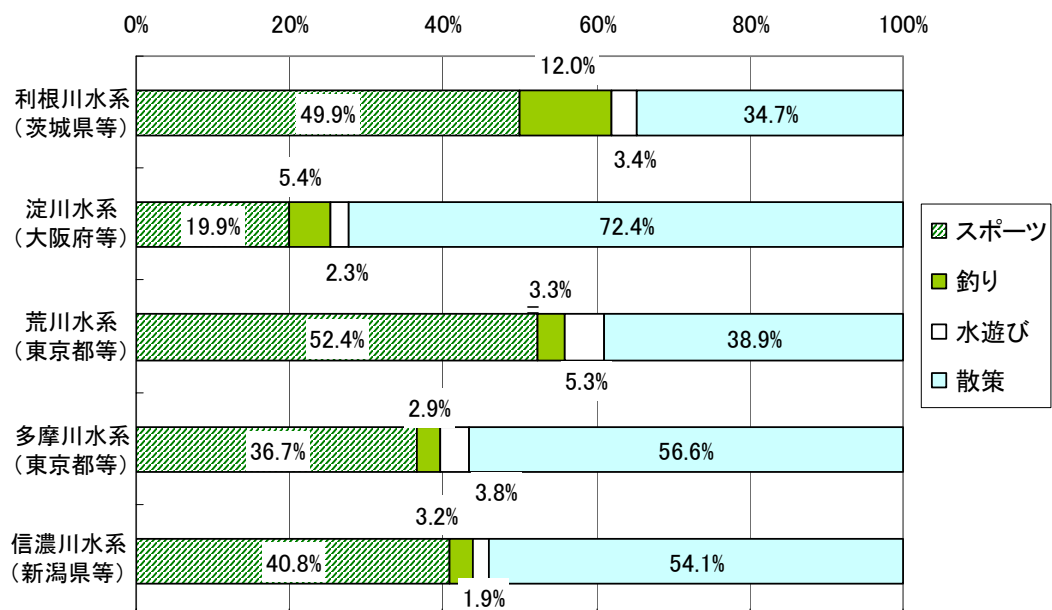


図 7 年間利用者総数ベスト5水系の利用形態別内訳（平成15年度）

利用形態別では、スポーツの割合が増加

調査開始以来、利用形態別では散策が常に半数を占めていますが、スポーツの割合が増加しています。（10年でプラス9ポイント）

広い河川敷を利用したスポーツ施設の整備や、マラソン大会などが増えているようです。

一方で釣り、水遊びといった水に親しむ利用は減っています。

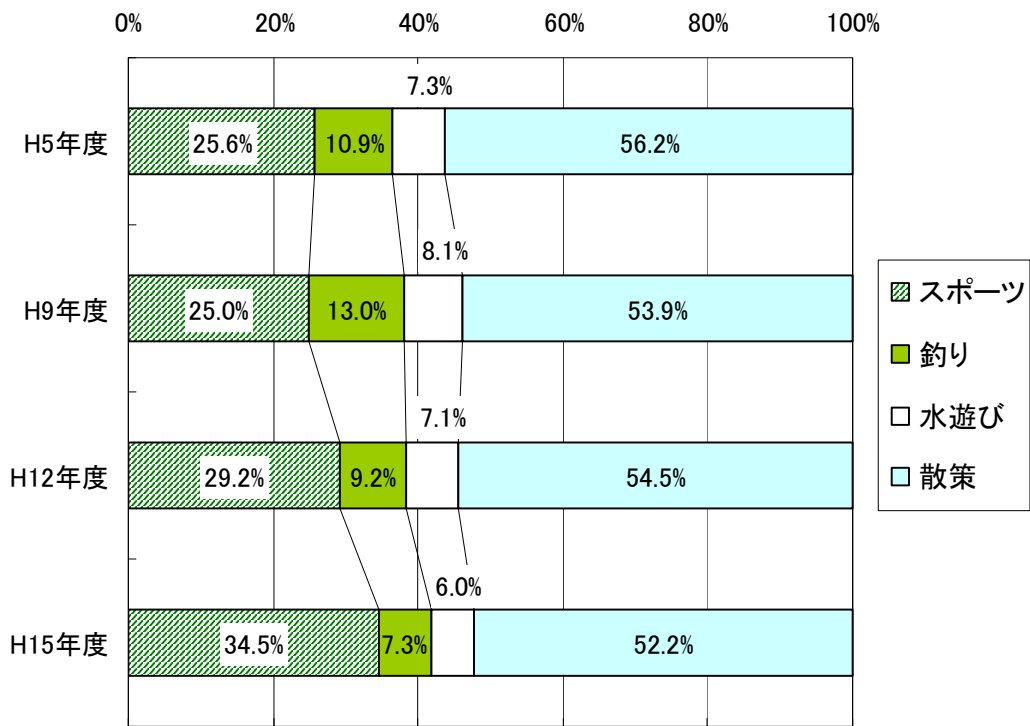
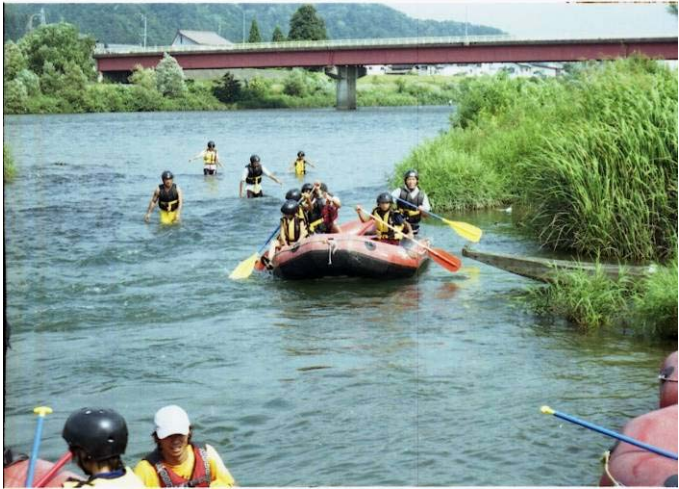


図 8 利用形態別内訳の経年変化



多摩川水系（東京都等） 散策



信濃川水系（新潟県等） 川くだり

一年を通して散策の利用が多いが、秋季はスポーツが突出

一年を通して散策の利用の割合が多くなっていますが、秋にはスポーツの割合が散策を抜いて最も高くなります。河川敷で運動大会などが開催されている結果と考えられます。

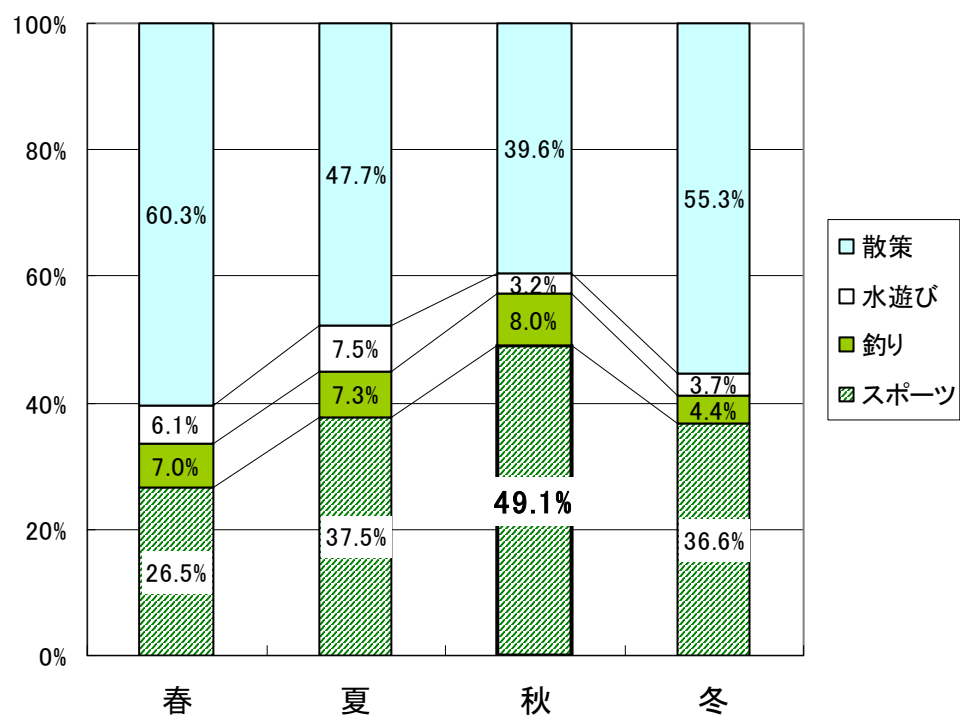


図 9 季節ごとの利用形態別内訳（平成 15 年度）



淀川水系（大阪府等） 野球大会



大井川水系（静岡県） マラソン

河川（ダム湖の区間を除く）における良好な水辺環境を指標する
夏の水遊び利用者数（1 kmあたり）が最も多かったのは、豊川水系 235 人

水辺に近づき、川自体を利用するという水辺の代表的な活動としては、水遊びや釣りがあげられます。

なお、利用者数の多少は、良好な水辺環境といった要因の他に、その川へのアクセスの容易さも一要因となり得ると考えられます。

① 水遊び利用について

a. 夏の水遊び

川を利用する形態としては、夏における水遊びが代表格ですが、その利用者数を見ると、木曽川水系（岐阜県等）が最も多く、以下、2位・利根川水系（茨城県等）、3位・淀川水系（大阪府等）、4位・豊川水系（愛知県）、5位・太田川水系（広島県）と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は豊川水系（愛知県）になりました。自然度が高く、水遊びがその水系の主な利用形態になっている水系が上位にランクされています。

表 4 夏の水遊びの利用者数（人）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	木曽川（岐阜県等）	59,598	利根川（茨城県等）	30,733	木曽川（岐阜県等）	15,653
2位	利根川（茨城県等）	35,107	木曽川（岐阜県等）	22,364	利根川（茨城県等）	10,622
3位	淀川（大阪府等）	15,276	太田川（広島県）	12,291	淀川（大阪府等）	9,034
4位	太田川（広島県）	14,000	多摩川（東京都等）	9,649	豊川（愛知県）	8,680
5位	仁淀川（高知県）	10,054	仁淀川（高知県）	9,398	太田川（広島県）	6,300

※全て水系名です。

表 5 直轄管理区間延長あたりの夏の水遊びの利用者数（人／km）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	仁淀川（高知県）	388	仁淀川（高知県）	363	豊川（愛知県）	235
2位	木曽川（岐阜県等）	240	相模川（神奈川県等）	268	相模川（神奈川県等）	235
3位	吉井川（岡山県）	240	物部川（高知県）	166	仁淀川（高知県）	153
4位	安倍川（愛知県）	181	大分川（大分県）	165	高瀬川（青森県）	112
5位	豊川（愛知県）	157	櫛田川（三重県）	155	網走川（北海道）	87

※ 全て水系名です。



網走川水系（北海道） 水遊び（シジミ獲り）



物部川水系（高知県） 水遊び

b. 年間を通した水遊び

年間を通した水遊びの利用が最も多かったのは、荒川水系（東京都等）であり、以下、2位・利根川水系（茨城県等）、3位・木曽川水系（岐阜県等）、4位・淀川水系（大阪府等）、5位・多摩川水系（東京都等）と続きます。

直轄管理区間（ダム湖の区間を除く）延長あたりの利用者数をみると、第1位は相模川水系（神奈川県等）になりました。

相模川水系は、直轄管理区間延長あたりの利用者数で見ると、今回も前回と同様、水遊びと釣りで1位となっており、引き続き、水辺の代表的な活動が最も盛んな川と位置づけられます。

表 6 水遊びの年間利用者数（万人）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	木曽川（岐阜県等）	240	木曽川（岐阜県等）	221	荒川（東京都等）	126
2位	利根川（茨城県等）	173	利根川（茨城県等）	90	利根川（茨城県等）	111
3位	多摩川（東京都等）	104	多摩川（東京都等）	59	木曽川（岐阜県等）	93
4位	淀川（大阪府等）	81	天竜川（静岡県等）	56	淀川（大阪府等）	62
5位	太田川（広島県）	61	太田川（広島県）	51	多摩川（東京都等）	51

※全て水系名です。

表 7 直轄管理区間延長あたりの水遊びの年間利用者数（万人／km）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	相模川（神奈川県等）	1.4	相模川（神奈川県等）	2.2	相模川（神奈川県等）	1.2
2位	多摩川（東京都等）	1.3	仁淀川（高知県）	1.1	豊川（愛知県）	1.0
3位	仁淀川（高知県）	1.1	櫛田川（三重県）	1.1	荒川（東京都等）	0.9
4位	木曽川（岐阜県等）	1.0	雲出川（三重県）	1.0	紀の川（和歌山県等）	0.7
5位	豊川（愛知県）	0.7	木曽川（岐阜県等）	0.9	仁淀川（高知県）	0.7

※全て水系名です。



仁淀川水系（高知県） 水遊び



番匠川水系（大分県） カヌー

② 釣りについて

釣りの利用が最も多い水系は利根川水系（茨城県等）であり、以下、2位・淀川水系（大阪府等）、3位・荒川水系（東京都等）、4位・木曽川水系（岐阜県等）、5位・遠賀川水系（福岡県）と続きます。

直轄管理区間延長あたりの利用者数をみると、第1位は相模川水系（神奈川県等）でした。

前回調査と同様、都市部を流れる河川が上位に入っています。水遊びに比べ、利便性が高い水系で利用者が多い傾向が見られます。

ただ、利根川水系、淀川水系など上位5位に常連の水系は、前回調査でも、今回調査でも、釣りの利用者数は減っています。

表 8 釣りの年間利用者数（万人）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	利根川（茨城県等）	700	利根川（茨城県等）	512	利根川（茨城県等）	397
2位	淀川（大阪府等）	186	淀川（大阪府等）	181	淀川（大阪府等）	148
3位	荒川（東京都等）	171	荒川（東京都等）	87	荒川（東京都等）	79
4位	多摩川（東京都等）	151	木曽川（岐阜県等）	61	木曽川（岐阜県等）	52
5位	木曽川（岐阜県等）	82	多摩川（東京都等）	57	遠賀川（福岡県）	51

※全て水系名です。

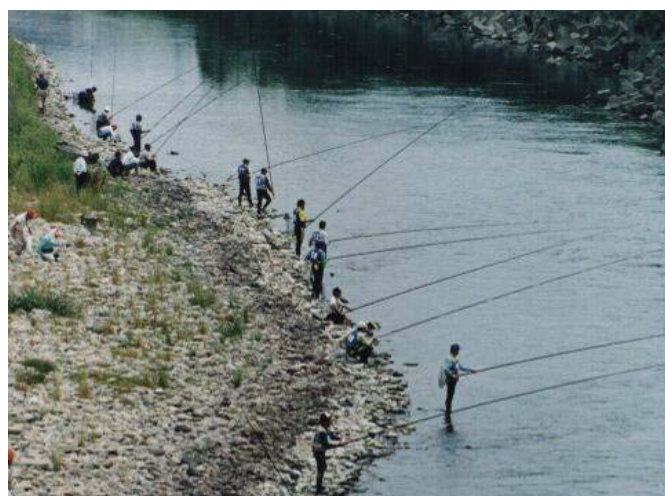
表 9 直轄管理区間延長あたりの釣りの年間利用者数（万人／km）

順位	平成9年度調査		平成12年度調査		平成15年度調査	
1位	多摩川（東京都等）	1.9	相模川（神奈川県等）	1.6	相模川（神奈川県等）	1.0
2位	鶴見川（神奈川県等）	1.9	物部川（高知県）	1.0	馬淵川（青森県等）	0.9
3位	相模川（神奈川県等）	1.5	淀川（大阪府等）	0.8	淀川（大阪府等）	0.6
4位	荒川（東京都等）	1.2	多摩川（東京都等）	0.7	荒川（東京都等）	0.5
5位	高梁川（岡山県等）	1.1	利根川（茨城県等）	0.7	利根川（茨城県等）	0.5

※全て水系名です。



木曽川水系（岐阜県等） アユ釣り



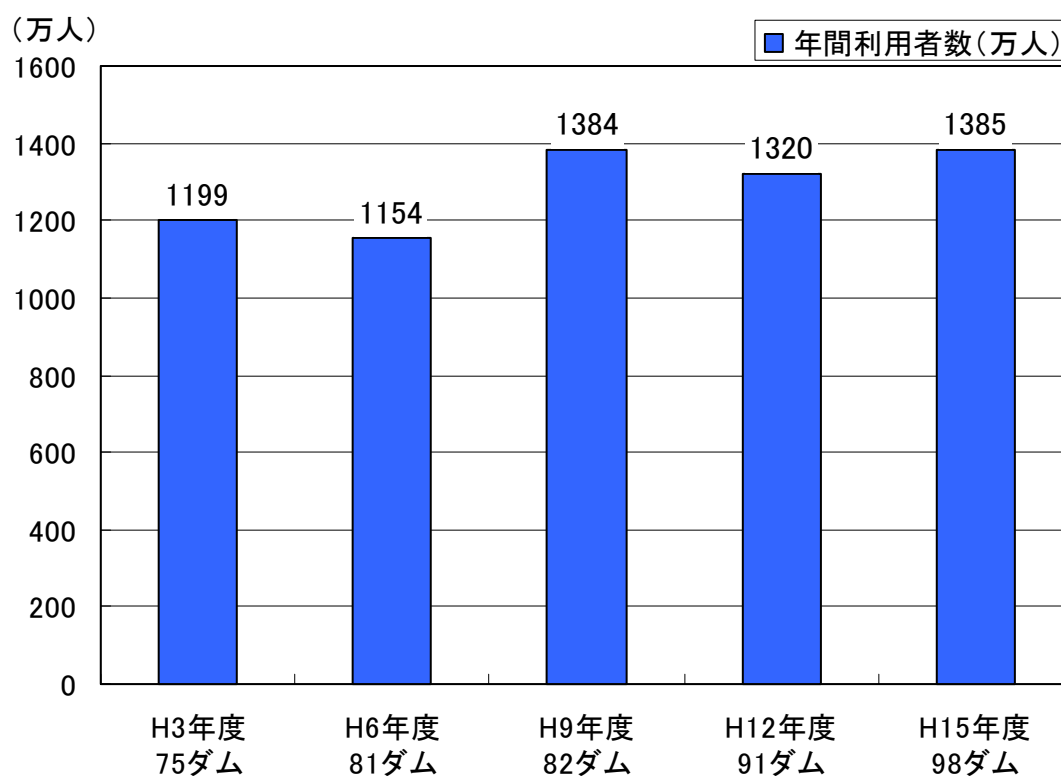
高津川水系（島根県） アユ釣り

4. 調査結果の概要(ダム湖編)

H15年度の98ダムにおけるダム湖及びその周辺の年間利用者総数は約1,385万人

国土交通省直轄及び水資源機構の管理中の98ダムの年間利用者総数の推計値は、約1,385万人でした。

前回の調査を行った平成12年度の年間利用者総数約1,320万人と比較すると約65万人増加し、これまでの調査で最多であった平成9年度を上回る結果となりました。



金山ダム(北海道) キャンプ

ダム別利用者総数第1位は、神奈川県にある宮ヶ瀬ダム

年間利用者数の最も多いダムは、宮ヶ瀬ダム（神奈川県）でした。

表 10 年間利用者数（総数）のベスト5

順位	平成12年度調査	平成15年度調査
1位	御所ダム（岩手県：約89万人）	宮ヶ瀬ダム（神奈川県：約135万人）
2位	日吉ダム（京都府：約87万人）	御所ダム（岩手県：約101万人）
3位	金山ダム（北海道：約74万人）	金山ダム（北海道：約73万人）
4位	草木ダム（群馬県：約59万人）	日吉ダム（京都府：約53万人）
5位	釜房ダム（宮城県：約46万人）	三春ダム（福島県：約43万人）

なお、宮ヶ瀬ダム（神奈川県）は、平成13年度から管理を開始しており、今回が初めての調査となっています。

表 11 平成15年度 年間利用形態別ベスト10

順位	総計	利用形態別内訳							イベント
		スポーツ	釣り	ボート	散策	野外活動	施設利用	その他	
1	宮ヶ瀬ダム (1,348)	天ヶ瀬ダム (169)	布目ダム (61)	宮ヶ瀬ダム (23)	宮ヶ瀬ダム (510)	金山ダム (286)	御所ダム (709)	宮ヶ瀬ダム (536)	宮ヶ瀬ダム (523)
2	御所ダム (1,013)	滝里ダム (64)	下久保ダム (57)	金山ダム (13)	七ヶ宿ダム (256)	日吉ダム (124)	三春ダム (298)	御所ダム (193)	御所ダム (193)
3	金山ダム (728)	土師ダム (54)	日吉ダム (40)	浦山ダム (7)	鶴田ダム (177)	真名川ダム (78)	岩屋ダム (276)	金山ダム (175)	釜房ダム (50)
4	日吉ダム (534)	緑川ダム (43)	高山ダム (29)	竜門ダム (5)	桂沢ダム (168)	八田原ダム (73)	草木ダム (266)	釜房ダム (95)	新宮ダム (50)
5	三春ダム (434)	美利河ダム (41)	弥栄ダム (26)	滝里ダム (5)	金山ダム (146)	天ヶ瀬ダム (65)	白川ダム (220)	日吉ダム (93)	湯田ダム (44)
6	草木ダム (432)	二風谷ダム (38)	一庫ダム (21)	下久保ダム (5)	漁川ダム (130)	弥栄ダム (65)	釜房ダム (214)	温井ダム (78)	天ヶ瀬ダム (36)
7	釜房ダム (395)	弥栄ダム (37)	釜房ダム (20)	相俣ダム (3)	一庫ダム (128)	二風谷ダム (62)	宮ヶ瀬ダム (209)	新宮ダム (53)	緑川ダム (34)
8	天ヶ瀬ダム (351)	高山ダム (34)	三春ダム (20)	湯田ダム (3)	浅瀬石川ダム (115)	一庫ダム (60)	日吉ダム (204)	弥栄ダム (52)	田瀬ダム (33)
9	白川ダム (350)	宮ヶ瀬ダム (31)	天ヶ瀬ダム (19)	九頭竜ダム (2)	草木ダム (110)	緑川ダム (42)	野村ダム (164)	五十里ダム (49)	金山ダム (26)
10	七ヶ宿ダム (346)	湯田ダム (28)	田瀬ダム (17)	土師ダム (2)	手取川ダム (100)	島地川ダム (32)	寺内ダム (110)	湯田ダム (43)	鶴田ダム (26)
平均	141	10	7	1	46	15	41	22	13
合計	13,853	983	702	87	4,502	1,434	4,008	2,137	1,319

注1) 数値は年間利用者数（単位：千人）

注2) 平均と合計は全調査対象ダム（98ダム）における統計値



宮ヶ瀬ダム（神奈川県） イベント



布目ダム（奈良県） 釣り

年間利用者数の多いダムは、「大都市の郊外」・「施設が充実」が特徴

年間利用者数の多いダム（上位5位のダム）についての特徴と利用者の多い施設や場所をみると、以下のようになっています。

宮ヶ瀬ダム： 東京や横浜からの日帰り圏内に位置し、公園やアミューズメント施設等の利用者が多い。また、イベント等の参加人数も多い。

御所ダム： 盛岡市の郊外に位置し、手作り工房を備えた手づくり村、ゴーカートやサイクル列車を備えた乗り物広場等の施設の利用者が多い。

金山ダム： ウォータースポーツが盛んで、湖畔のキャンプ場周辺の利用者が多い。

日吉ダム： ダム堤体と一体となった公園整備がなされており、温泉や体育館を備えたスプリングス日吉、郷土資料館やキャンプ場を備えた府民の森等の施設の利用者が多い。

三春ダム： 郡山市の近郊に位置し、自然観察ステーションや宿泊施設・露天風呂・プール等を備えた多目的施設が集中しているエリアにおいて利用者が多い。

「大都市の郊外に位置している」、「ダム湖のスポーツ・レクリエーション施設が充実している」ということが、これらのダムの特徴として挙げられます。

表 12 年間利用者数上位5位の特徴

順位	ダム名	年間利用者数 (万人)	近隣都市			ダム湖および周辺の特徴	利用者数の多い施設や場所
			名称	人口 (千人)	距離 (km)		
1位	宮ヶ瀬ダム	135	相模原	610	12	・首都圏から日帰り圏内 ・充実した公園施設	・及沢園地、県立あいかわ公園
2位	御所ダム	101	盛岡	290	9	・盛岡市郊外 ・湖畔に繋温泉がある。	・手づくり村、乗り物広場
3位	金山ダム	73	旭川	363	88	・充実したウォータースポーツ施設がある。	・森林公園、キャンプ場
4位	日吉ダム	53	京都	1,465	26	・ダム堤体と一体となった公園施設	・スプリングスひよし、府民の森
5位	三春ダム	43	郡山	360	10	・「水かけまつり」が有名	・田園生活館、自然観察ステーション、石畑水生生物観察園



御所ダム（岩手県） 施設利用（手づくり村）



巖木ダム（佐賀県） 親水護岸での水遊び

利用形態は、散策が最多

利用形態別をみると、前回調査と同様に散策が最も多く約 32%（前回調査：約 37%）を占め、次いでダム資料館、売店等の施設の利用が約 29%（前回調査：約 28%）、キャンプや写真撮影等の野外活動が 10%（前回調査：約 10%）、スポーツが 7%（前回調査：約 6%）、釣りが 5%（前回調査：約 8%）となっています。

利用場所別をみると、前回調査と同様に湖畔が約 83%（前回調査：約 79%）と最も多く、次いでダムが約 9%（前回調査：約 10%）、湖面約 8%（前回調査：約 11%）となっています。

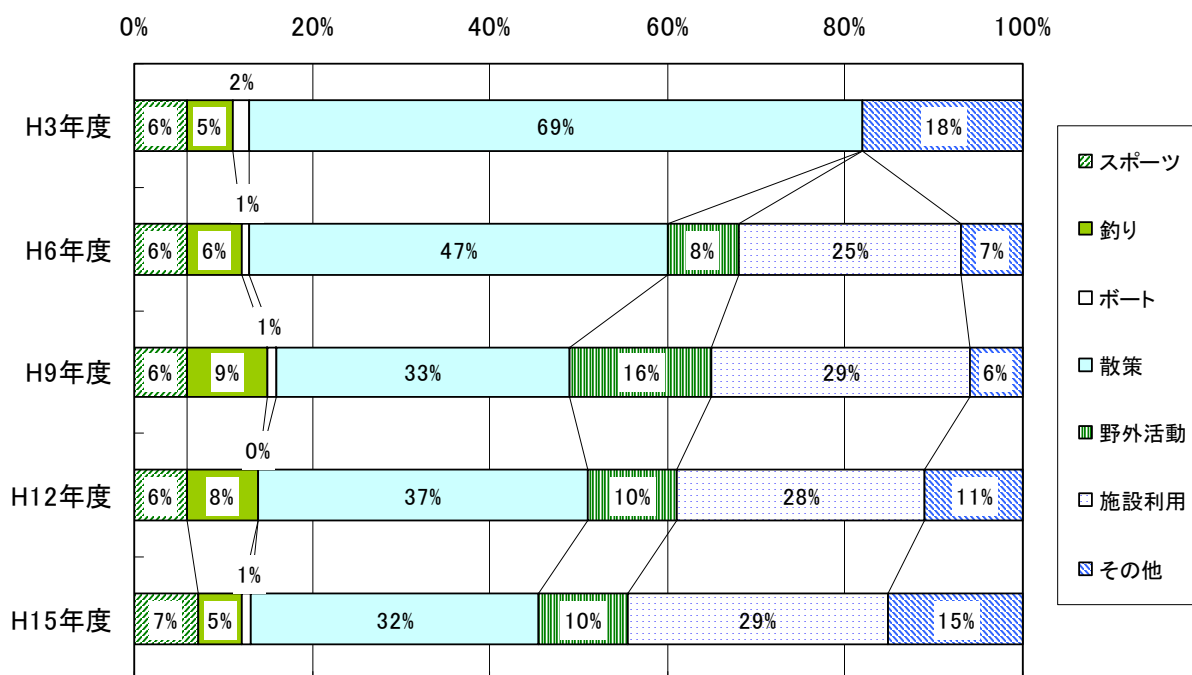


図 10 全国利用形態別グラフ（経年）

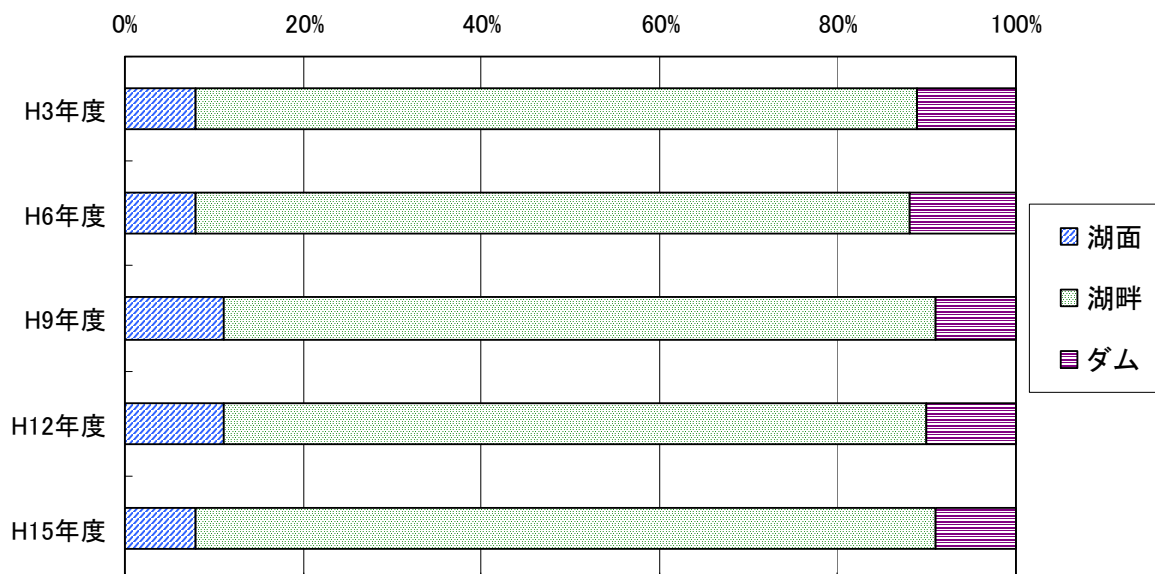


図 11 全国利用場所別グラフ（経年）



福地ダム（沖縄県） 水遊び



土師ダム（広島県） 散策



宇奈月ダム（富山県） イベント